

# Sun Server X4-2L

Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド

---

Copyright © 2013 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

はじめに .....	5
最新のソフトウェアとファームウェアの入手 .....	5
このドキュメントについて .....	5
関連ドキュメント .....	5
フィードバック .....	6
サポートとアクセシビリティ .....	6
<b>1. Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて .....</b>	<b>7</b>
Oracle Solaris OS インストールタスクマップ .....	7
サポートされているオペレーティングシステム .....	8
コンソール表示オプションの選択 .....	9
コンソール表示オプション .....	9
▼ ローカルコンソールを設定する .....	9
▼ リモートコンソールを設定する .....	10
ブートメディアオプションの選択 .....	10
ブートメディアオプションの要件 .....	10
▼ ローカルブートメディアオプションを設定する .....	11
▼ リモートブートメディアオプションを設定する .....	11
インストール先オプションの選択 .....	12
インストール先のオプション .....	12
▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する .....	12
▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する .....	12
Oracle Solaris OS インストールオプション .....	13
サーバー 1 台構成のインストール方法 .....	13
Oracle Solaris の補助付きインストール .....	14
Oracle Solaris の手動インストール .....	14
Oracle System Assistant の概要 .....	14
Oracle System Assistant のタスク .....	15
「Get Updates」および「Install OS」タスク .....	16
Oracle System Assistant の取得 .....	16
<b>2. オペレーティングシステムのインストールの準備 .....</b>	<b>17</b>
BIOS の設定 .....	17
▼ BIOS の出荷時デフォルトを検証する .....	17
▼ Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える .....	20
RAID の構成 .....	22
<b>3. Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール .....</b>	<b>23</b>
準備作業 .....	23
Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle Solaris のインストール .....	24

▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle Solaris をインストールする .....	24
メディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの単一システムへのインストール .....	27
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール .....	28
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 11 のインストール .....	30
▼ PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール .....	32
Oracle Solaris インストール後のタスク .....	36
<b>索引</b> .....	37

# このドキュメントの使用方法

---

このインストールガイドでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順と、Oracle の Sun Server X4-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

このセクションでは、最新のソフトウェアとファームウェア、ドキュメントとフィードバック、およびサポートとアクセシビリティ情報の入手方法を説明します。

- [5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」](#)
- [5 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [5 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [6 ページの「フィードバック」](#)
- [6 ページの「サポートとアクセシビリティ」](#)

## 最新のソフトウェアとファームウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシ用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant – これは、工場出荷時にインストールされる Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。必要なすべてのツールとドライバが含まれており、サーバーに組み込まれています。
- My Oracle Support: <http://support.oracle.com>
- 物理メディアの申請

詳細については、『[設置](#)』、「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。

## このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は (オンラインヘルプと同様の) トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、セクション番号はありません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF バージョンを生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

## 関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>

ドキュメント	リンク
Sun Server X4-2L	<a href="http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs">http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs</a>
Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド	<a href="http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs">http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	<a href="http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs">http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs</a>
Oracle Hardware Management Pack 2.2	<a href="http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs">http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs</a>

## フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは、次の場所ですenderことができます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

## サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	<a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a>
	聴覚障害の方へ: <a href="http://www.oracle.com/accessibility/support.html">http://www.oracle.com/accessibility/support.html</a>
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	<a href="http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html">http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html</a>

---

# 1

・・・ 第 1 章

## Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて

---

このセクションでは、サーバー に新しい Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を示します。

説明	リンク
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順について学習します。	<a href="#">7 ページの「Oracle Solaris OS インストールタスクマップ」</a>
サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムについて学習します。	<a href="#">8 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」</a>
コンソール表示オプションとそれらの設定方法について学習します。	<a href="#">9 ページの「コンソール表示オプションの選択」</a>
ブートメディアオプションとそれらの設定方法について学習します。	<a href="#">10 ページの「ブートメディアオプションの選択」</a>
インストール先オプションとそれらの設定方法について学習します。	<a href="#">12 ページの「インストール先オプションの選択」</a>
オペレーティングシステムのインストールオプションについて学習します。	<a href="#">13 ページの「Oracle Solaris OS インストールオプション」</a>
Oracle System Assistant について学習します。	<a href="#">14 ページの「Oracle System Assistant の概要」</a>

### 関連情報

- ・ [23 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」](#)

## Oracle Solaris OS インストールタスクマップ

次の手順では、新規インストールで Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールするための手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	・ 『設置』、「サーバーのラックへの設置」 ・ 『設置』、「サーバーの配線」 ・ 『設置』、「Oracle ILOM への接続」
2.	Oracle Solaris インストールメディアを入手します。	次の Web サイトからインストールメディアをダウンロードまたは注文できます。 ・ <a href="http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris10/downloads/index.html">http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris10/downloads/index.html</a>

手順	説明	リンク
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/downloads/index.html">http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/downloads/index.html</a></li> </ul>
3.	プロダクトノートを確認します。	『Sun Server X4-2L プロダクトノート』( <a href="http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs">http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs</a> )
4.	インストールの実行に使用するコンソール、メディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 9 ページの「コンソール表示オプションの選択」</li> <li>• 10 ページの「ブートメディアオプションの選択」</li> <li>• 12 ページの「インストール先オプションの選択」</li> </ul>
5.	OS の新規インストール時の BIOS 設定を確認します。	17 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」
6.	Oracle Solaris OS をインストールします。	27 ページの「メディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの単一システムへのインストール」
7.	インストール後のタスクを適宜実行します。	36 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」

Oracle Solaris OS の追加ドキュメントは、次の URL で入手できます。

- Oracle Solaris 10 1/13: [http://docs.oracle.com/cd/E26505\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26505_01/index.html)
- Oracle Solaris 11.1: [http://docs.oracle.com/cd/E26502\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/index.html)

## 関連情報

- 17 ページの「[オペレーティングシステムのインストールの準備](#)」

## サポートされているオペレーティングシステム

サーバーでは、次の Oracle Solaris オペレーティングシステムソフトウェアがサポートされます。

Oracle Solaris OS	版
Oracle Solaris 10	リリース 10 1/13
Oracle Solaris 11	リリース 11.1

サーバーの注文時に Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) の事前インストールを要求した場合は、工場出荷時に Oracle Solaris 11.1 がプリインストールされています。Oracle Solaris OS がサーバーにインストール済みだがそれを使用しない場合、ほかのサポートされている任意のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs> にある最新バージョンの『Sun Server X4-2L プロダクトノート』を参照してください。<http://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Server+X4-2L++Operating+Systems> でも、サポートされているオペレーティングシステムの一覧を確認できます。



### 注記

Oracle Solaris 11.1 OS がプリインストールされていた場合、それは、サーバーがレガシー BIOS に設定された状態でインストールされたものです。UEFI BIOS ブートモードでサーバーをブートすることにした場合、インストール済みのイメージにアクセスすることはできません。したがって、UEFI/BIOS ブートモードを UEFI BIOS に設定した状態で Oracle Solaris 11.1 OS を使用するには、Oracle Solaris 11.1 の新規インストールを実行する必要があります。

## 関連情報

- [23 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」](#)

## コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためのコンソールへの接続オプションについて説明します。

- [9 ページの「コンソール表示オプション」](#)
- [9 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [10 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

### コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末

端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。

- ビデオポート (VGA) と 2 つの背面 USB コネクタに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

## ▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します。
  - 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。
  - VGA モニター、キーボード、マウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
  - a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
  - b. Oracle ILOM プロンプトで、次を入力します。

```
-> start /HOST/console
```

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

---

## 関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ

### ▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。  
コマンド行インタフェースまたは Web インタフェースのどちらかを使用して Oracle ILOM にリモートからログインするには、サーバー SP の IP アドレスを知っている必要があります。サーバーの IP アドレスの確認方法については、『設置』の「サーバー SP の IP アドレスの確認」を参照してください。
2. Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
  - a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
  - b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
  - c. Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。
  - d. 必要に応じて、「Devices」メニューでデバイスのリダイレクト (マウス、キーボードなど) を有効にします。
3. SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
  - a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します (**ssh root@hostname**。ここでは、hostname はサーバー SP の DNS 名または IP アドレス)。
  - b. Oracle ILOM にログインします。
  - c. 次を入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。

-> **start /HOST/console**

## 関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) ドキュメントライブラリ

### ブートメディアオプションの選択

オペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースからブートします。このセクションでは、各ソースについて、サポートされているメディアソースとセットアップ要件を明示します。

- [10 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [11 ページの「ローカルブートメディアオプションを設定する」](#)
- [11 ページの「リモートブートメディアオプションを設定する」](#)

### ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [11 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)

- 
- [11 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

## ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

## リモートブートメディアの要件

ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上に OS イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- DVD-ROM インストールメディア
- DVD-ROM ISO インストールイメージメディア
- PXE boot – Oracle Solaris 11 は PXE ブートをサポートしています。ただし、いったん PXE ブートが開始されると、Oracle Solaris 11 のインストールは Automated Installation (AI) インストーラを使用して実行されます。サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールの実行手順については、[32 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」](#)を参照してください。

## ▼ ローカルブートメディアオプションを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Oracle Solaris OS インストールメディアが格納されているストレージデバイスをサーバーに装着する必要があります。

1. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Oracle Solaris OS インストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
2. サーバーに DVD ドライブがない場合は、サーバー前面または背面の外部 USB ポートの 1 つに、Oracle Solaris OS インストールメディアが格納された USB フラッシュドライブを装着します。



### 注記

サーバーの外部 USB ポートの場所については、『[設置](#)』の「サーバーの機能とコンポーネント」を参照してください。

---

## ▼ リモートブートメディアオプションを設定する

リモートの場所にあるメディアから OS をインストールするには、これらの手順を実行します。

1. OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。例:
  - **DVD-ROM** の場合は、リモートシステム上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。

- ・ DVD-ROM ISO イメージの場合は、ISO イメージがネットワーク共有された場所で利用できることを確認します。
- 2. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。  
詳細は、[9 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。
- 3. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します:
  - ・ DVD-ROM ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。
  - ・ DVD-ROM ISO イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

## インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法を説明します。

- ・ [12 ページの「インストール先のオプション」](#)
- ・ [12 ページの「ローカルストレージドライブ \(HDD または SSD\) をインストール先として設定する」](#)
- ・ [12 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」](#)

### インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されている) を除き、サーバーに取り付けたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。



#### 注記

SSD は Oracle Engineered Systems でしかサポートされません。

---

### ▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- ・ HDD または SSD が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。  
HDD または SSD の取り付けと電源の投入方法については、『サービス』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

### ▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する

1. PCIe サーバーにホストバスアダプタ (HBA) が正しく取り付けられていることを確認します。

PCIe HBA オプションの設置方法については、『サービス』の「PCIe カードの保守 (CRU)」を参照してください。

- Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。  
手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

## Oracle Solaris OS インストールオプション

OS は、単一のサーバーまたは複数のサーバーにインストールするよう選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、1 つの OS を複数のサーバー上にインストールできます。詳細については、 <a href="http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html">http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html</a> にアクセスしてください
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一サーバーに OS をインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。</li> <li>リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されます。このオプションは、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。</li> </ul> <p><b>注記</b></p> <p>単一サーバーの Oracle Solaris インストールでは Oracle System Assistant を使用すべきですが、この OS の場合、Oracle System Assistant は推奨のドライバやツールをインストールしません。</p>

サーバー 1 台構成の OS インストール方法についての詳細は、次を参照してください。

- [13 ページの「サーバー 1 台構成のインストール方法」](#)

### サーバー 1 台構成のインストール方法

Oracle Solaris インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細については、 <a href="#">14 ページの「Oracle Solaris の補助付きインストール」</a> を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細について

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 – サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	は、14 ページの「Oracle Solaris の補助付きインストール」を参照してください。
CD/DVD ドライブまたは DVD/ISO イメージを使用したリモートインストール–Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB DVD ドライブ、および Oracle Solaris 配布メディア。ローカルインストールの場合は、サーバーに直接接続されたローカルの DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを使用してインストールメディアを配布します。 ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 CD/DVD ドライブ、Oracle Solaris 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。リモートインストールの場合、リモートの DVD、USB フラッシュドライブ、または DVD イメージを使用してインストールメディアを配布します。

## Oracle Solaris の補助付きインストール

これは、Oracle Solaris をサーバーにインストールするための推奨方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。Oracle Solaris インストールメディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージに提供します。Oracle System Assistant はインストールプロセスをガイドします。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があります、そのサーバーにインストールされている必要があります。



### 注記

Oracle Solaris の場合、Oracle System Assistant は推奨のドライバやツールをインストールしません。

## Oracle Solaris の手動インストール

この方法では、Oracle Solaris 配布メディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。必要なドライバをインストールする必要もあります。サーバー用のドライバは、サーバー内蔵の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (ドライバへのアクセスを可能にするために取り付けが必要) に用意されており、My Oracle Support Web サイトから OS 固有およびサーバー固有のパッケージとして、または ISO イメージファイルとして入手することもできます。Oracle Solaris をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

## Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー向けの単一サーバーシステム管理ツールです。Oracle System Assistant は、Oracle の単一システム管理製品および選り抜きの関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に構成および保守できるようにするツール群を提供します。

Oracle System Assistant には、ローカルコンソール接続を使用してローカルからアクセスすることも、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してリモートからアクセスすることもできます。

ラックへのサーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant を (物理的にサーバーにいる間に) ローカルで使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーが動作すると、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです。

- Oracle System Assistant アプリケーション
- Oracle Hardware Management Pack
- 構成と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle System Assistant のコマンド行環境
- オペレーティングシステムのドライバおよびツール (Oracle Solaris は除く)。
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、組み込みストレージデバイス (USB フラッシュドライブ) としてサーバー内部に存在し、出荷時にサーバー固有のバージョンのツールおよびドライバを使用して構成されており、オンライン更新を使用して保守が行われます。

Oracle System Assistant の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [15 ページの「Oracle System Assistant のタスク」](#)
- [16 ページの「「Get Updates」および「Install OS」タスク」](#)
- [16 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

## Oracle System Assistant のタスク

Oracle System Assistant には、もっとも一般的かつ有用な単一サーバー管理プロビジョニングタスク一式が選択され、まとめられています。

次の情報やタスクは、迅速で便利なサーバーの設定と継続的なサーバー管理を可能にします。

- システムの概要とシステムインベントリ情報
- すべてのコンポーネント (ツール、ドライバ、ファームウェアなど) のオンラインアップデートの取得
- システムファームウェア (BIOS および Oracle ILOM) とホストバスアダプタファームウェアの更新
- RAID、Oracle ILOM、および BIOS 構成
- 補助付き OS インストール
- ネットワーク構成
- 機能と組み込まれたメディア整合性チェックの無効化
- 多言語キーボード
- 実行時環境を使用可能にする Oracle System Assistant シェル端末ウィンドウ
- Oracle Hardware Management Pack へのアクセス (Oracle System Assistant シェルを使用)

- Oracle System Assistant の復旧

## 「Get Updates」および「Install OS」タスク

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバとほかのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、および該当する場合はエキスパンダ) を更新する場合は、OS をインストールする前に「Get Updates」タスクを実行するようにしてください。

Oracle System Assistant の OS インストールタスクを実行すると、サポートされている OS をガイドに従ってインストールできます。OS インストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant が示す手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバをフェッチします。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムに使用できるわけではありません。

## Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant がサーバーでサポートされているため、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブがすでにサーバーに取り付けられている可能性があります。取り付けられている場合、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを使用して、最新のソフトウェアリリースに更新できます。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破壊または上書きされている場合は、My Oracle Support Web サイトから Oracle System Assistant Updater イメージをダウンロードしてください。ダウンロード手順については、『設置』、「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかの確認方法、および更新や復旧手順の実行方法については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

## 関連情報

- *Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

## ・・・第 2 章

# オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
サーバーの BIOS 設定を確認し、出荷時のデフォルトに設定します。	<a href="#">17 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」</a>
ブートモードを構成します。	<a href="#">20 ページの「Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える」</a>
サーバーの RAID セットアップを構成します。	<a href="#">22 ページの「RAID の構成」</a>

## BIOS の設定

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認する必要があります。

次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- ・ [17 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」](#)
- ・ [20 ページの「Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える」](#)

### 関連情報

- ・ [27 ページの「メディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの単一システムへのインストール」](#)

## ▼ BIOS の出荷時デフォルトを検証する



### 注記

新しく設置されたサーバーにはじめてオペレーティングシステムをインストールする場合、BIOS はおそらくデフォルト設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティーでは、デフォルト値を設定できます。また、BIOS の設定を必要に応じて表示および編集することもできます。BIOS 設定ユーティリティー (F2) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 を使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 を使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 を使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 で指定した常時ブートデバイスが有効になります。

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。手順については、『サービス』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、9 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- サーバー **SP** の **Oracle ILOM CLI** で「`reset /System`」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。

- a. F9 を押すと、出荷時のデフォルト設定が自動的にロードされます。

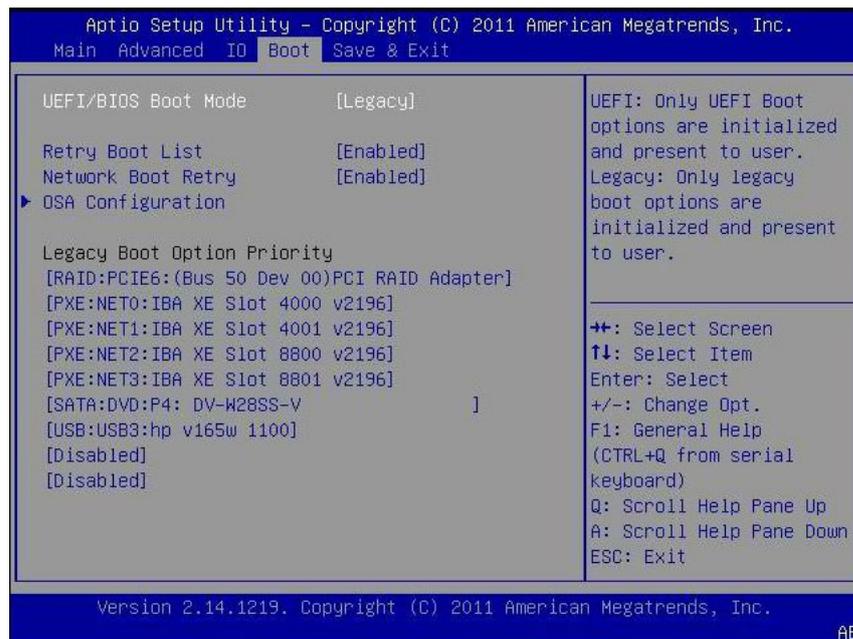
メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

- b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時間フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関する値を編集します。

- a. 変更する値を強調表示します。  
 上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。
  - b. 強調表示された欄の値を変更するには、次のキーを使用します。
    - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します
    - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します
    - Enter を押すと、カーソルが次の値の欄に移動します
5. ブート設定にアクセスするには、「Boot」メニューを選択します。  
 「Boot」メニューが表示されます。



6. 「Boot」メニューで、「UEFI/BIOS Boot Mode」がインストールに適した値に設定されていることを検証します。  
 ブートモードを変更するには、上下の矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、+/- キーを使用して「UEFI」と「Legacy」を切り替えます。



#### 注記

Oracle Solaris 10 1/13 は UEFI BIOS をサポートしないので、Oracle Solaris 10 1/13 をインストールするには UEFI/BIOS ブートモードをレガシーに設定する必要があります。

7. 「Boot」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、Enter を押します。  
 「Boot Device Priority」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度が高最も高いデバイスです。
8. 「Boot Device Priority」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
  - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter を押します。
  - b. 「Options」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、Enter を押します。



---

#### 注記

変更する各デバイス項目に対して手順 8a および 8b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

- 
9. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 を押します。または、「Save & Exit」メニューから「**Save Changes and Reset**」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「OK」を選択して、Enter を押します。



---

#### 注記

Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。このため、リモートコンソールアプリケーションの上部にある「Keyboard」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があります。

## ▼ Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) の両方をサポートしています。デフォルトの設定は Legacy BIOS です。オペレーティングシステムによっては、レガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているものも、レガシー BIOS だけをサポートしているものもあるので、ユーザーには次のオプションがあります。

- インストールするオペレーティングシステムがレガシー BIOS だけをサポートしている場合は、OS のインストールを行う前に、BIOS がレガシー BIOS に設定されていることを確認する必要があります。
- インストールするオペレーティングシステムがレガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしている場合は、OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。



---

#### 注記

現時点では、サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムのうち、UEFI BIOS サポートするのは Oracle Solaris 11.1 だけです。Oracle Solaris 10 1/13 は UEFI BIOS をサポートしません。



---

#### 注記

オペレーティングシステムをインストールしたあとで、レガシー BIOS から UEFI BIOS に、またはその逆に切り替えることにした場合、すべてのパーティションを削除して、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

---

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で、プロンプトから次のコマンドを入力します。

-> **reset /System**

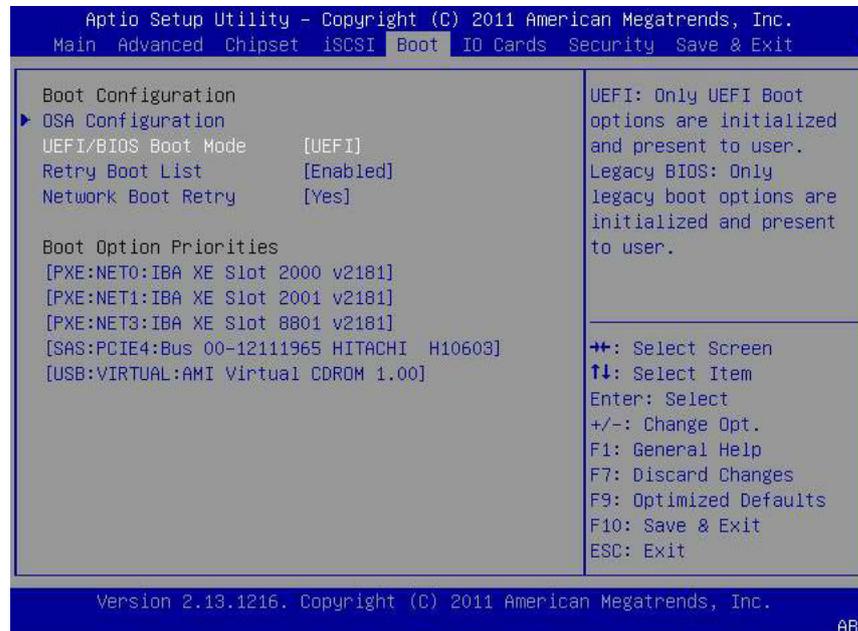
BIOS 画面が表示されます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. BIOS 設定ユーティリティで、上部のメニューバーから「Boot」を選択します。「Boot」メニュー画面が表示されます。



4. 「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、+/- キーを使用して、目的のモード (Legacy BIOS または UEFI) に設定を切り替えます。
5. 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

## RAID の構成

RAID (Redundant Array of Independent Disks) ボリュームに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、Oracle Solaris OS のインストールプロセスを開始する前に RAID ボリュームを構成しておく必要があります。RAID を構成する手順については、『設置』、「OS インストール用のサーバドライブの構成」を参照してください。

### 関連情報

- Oracle X4 シリーズサーバ管理ガイド (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

## Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール

---

このセクションでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムを サーバー にインストールする方法について説明します。

説明	リンク
プリインストール要件。	<a href="#">23 ページの「準備作業」</a>
Oracle System Assistant を使用した Oracle Solaris のインストール	<a href="#">24 ページの「Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle Solaris のインストール」</a>
メディアを使用した Oracle Solaris のインストール。	<a href="#">27 ページの「メディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの単一システムへのインストール」</a>

### 関連情報

- ・ [7 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて」](#)
- ・ [17 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」](#)
- ・ [22 ページの「RAID の構成」](#)

### 準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- ・ サーバーのストレージドライブで RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID を構成する手順については、『[設置](#)』、「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。



### 注記

サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z) が搭載されている場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に RAID ボリュームを作成してそれをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

---

- コンソール表示オプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよびセットアップ手順については、9 ページの「[コンソール表示オプションの選択](#)」を参照してください。
- ブートメディアオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよびセットアップ手順については、10 ページの「[ブートメディアオプションの選択](#)」を参照してください。
- このインストール手順を開始する前に、インストール先オプションとして使用するストレージドライブを決定し設定しておく必要があります。インストール先ストレージドライブおよびセットアップ手順については、12 ページの「[インストール先オプションの選択](#)」を参照してください。
- BIOS 設定がデフォルトに設定されていることを確認します。BIOS 設定を検証し、必要に応じて設定する方法については、17 ページの「[BIOS の出荷時デフォルトを検証する](#)」を参照してください。
- ローカルインストールを実行する場合は、Oracle Solaris インストールメディアを手元に用意して、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入できるようにしておきます。
- リモートインストールを実行する場合は、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに Oracle Solaris インストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM」を選択していることを確認します。
- Oracle Solaris イメージを使用している場合は、Oracle ILOM リモートコンソールシステムから Oracle Solaris ISO イメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM Image」を選択していることを確認します。
- Oracle Solaris オペレーティングシステムのドキュメントを用意し、この章で説明する手順と一緒に使用するようにしてください。Oracle Solaris OS のドキュメントは次にあります。
  - Oracle Solaris 10 1/13 ドキュメント: [http://docs.oracle.com/cd/E26505\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26505_01/index.html)
  - Oracle Solaris 11.1 ドキュメント: [http://docs.oracle.com/cd/E26502\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/index.html)

## Oracle System Assistant を使用した、単一システムへの Oracle Solaris のインストール

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、Oracle Solaris を サーバー にインストールするための推奨方法です。

- [24 ページの「Oracle System Assistant を使用して Oracle Solaris をインストールする」](#)

### ▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle Solaris をインストールする

この手順を始める前に、次を実行します。

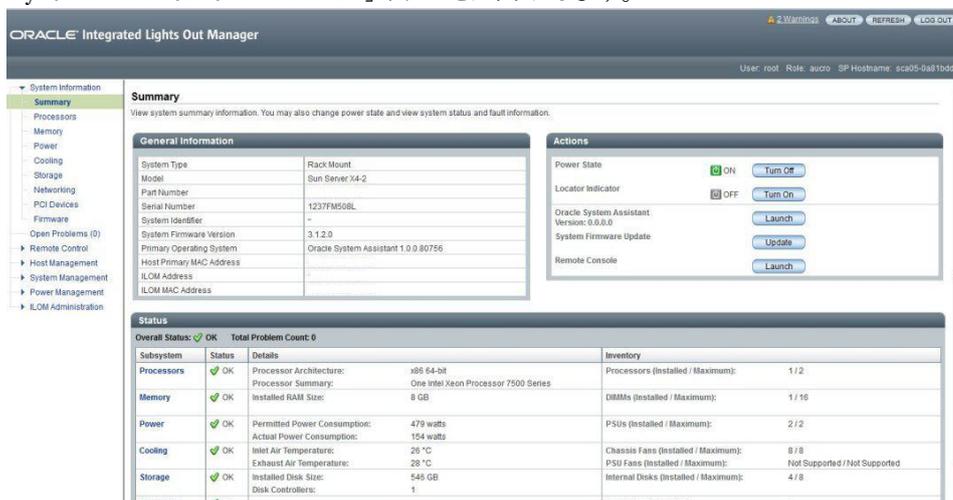
- [17 ページの「オペレーティングシステムのインストールの準備」](#)の手順を実行します。
- ブートドライブ (Oracle Solaris のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Oracle Solaris をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバーで

RAID を構成する方法については、『設置』「OS インストール用のサーバドライブの構成」を参照してください。

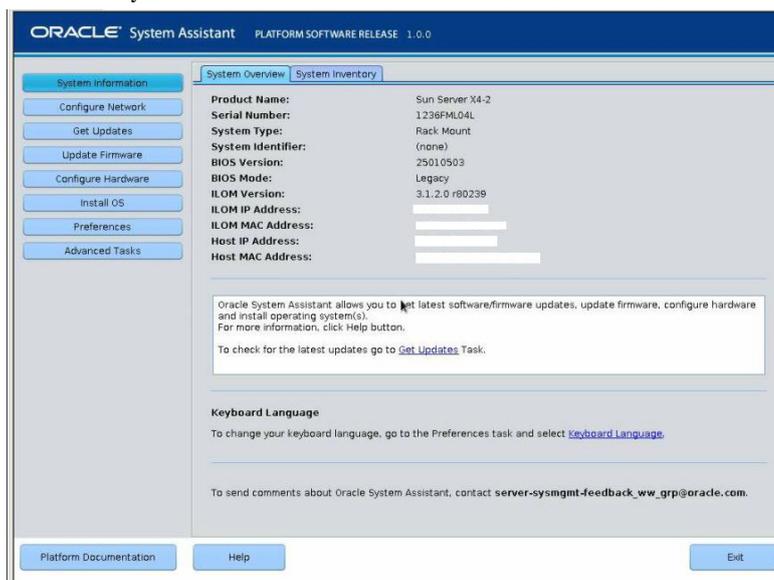
1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
  - ディストリビューション **CD/DVD** の場合。Oracle Solaris メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたは外付け CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
  - **ISO イメージ** の場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細については、10 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2. Oracle ILOM インタフェースから直接 Oracle System Assistant を起動する (推奨) 場合は、次の手順を実行します。それ以外の場合は、26 ページのステップ 3 に進みます。
  - a. Oracle ILOM Web インタフェースの「Actions」パネル (下を参照) で Oracle System Assistant の「Launch」ボタンをクリックします。



「Oracle System Assistant Overview」画面が表示されます。



- b. 26 ページのステップ 4 に進みます。

- 
3. Oracle ILOM リモートコンソールと BIOS を使って Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。

- a. **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Summary」>「Launch Remote Console」をクリックします。

「Oracle ILOM Remote Console」画面が表示されます。

- b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

例:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- Oracle ILOM CLI** で「**reset /System**」と入力します

Oracle ILOM リモートコンソールに BIOS 画面が表示されます。



#### 注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- 
- c. F9 キーを押します。

Oracle System Assistant の「System Overview」画面が表示されます。

4. 最新のソフトウェアリリースパッケージに更新するには、Oracle System Assistant の「Get Updates」ボタンをクリックします。  
このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーに最新のソフトウェアリリースパッケージが確実にインストールされます。



#### 注記

Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

- 
5. サーバーのファームウェアを更新するには、「Update Firmware」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。

6. Oracle Solaris をインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。  
「Install Operating System」画面が表示されます。
7. 「Supported OS」ドロップダウンリストから OS を選択します。
8. 画面の「Current BIOS mode」の部分で、インストールに使用する BIOS モード (UEFI またはレガシー BIOS) を選択します。



---

注記

Oracle Solaris 10 1/13 はレガシー BIOS のみをサポートします。したがって、Oracle Solaris 10 のインストール時には UEFI を選択しないでください。Oracle Solaris 11.1 は、UEFI BIOS とレガシー BIOS の両方の BIOS モードをサポートします。

9. 画面の「Select your install media location」セクションで、インストールメディアの場所を選択します。  
これは OS 配布メディアの場所です。



---

注記

Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

10. 画面の「Select boot disk」部分で、Oracle Solaris のインストール先となるデバイスを選択します。
11. 「View Installation Options」をクリックします。  
「Installation Options」ダイアログが表示されます。
12. 「Installation Options」ダイアログで、インストールしない項目を選択解除します。
13. 「Install OS」画面の最下部にある「Install OS」ボタンをクリックします。
14. ブートデバイスの選択を確認するため、「Yes」をクリックします。  
ブートデバイスを変更するには、「No」をクリックして別のデバイスを選択します。
15. プロンプトに従ってインストールを完了します。  
サーバーがブートします。

## メディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの単一システムへのインストール



---

注記

Oracle System Assistant は、Oracle Solaris OS のインストールをサポートしていません。

次のトピックには、Oracle Solaris 10 または 11 OS をインストールするためのガイドラインが記載されています。

- [28 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール」](#)
- [30 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 11 のインストール」](#)
- [32 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」](#)
- [36 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」](#)

## 関連情報

- [7 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて」](#)

## ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール

次の手順では、ローカルメディアまたはリモートメディアから Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムのインストールをブートする方法を説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Solaris 10 1/13 DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Oracle Solaris 10 1/13 ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)



---

### 注記

Oracle Solaris 10 1/13 は UEFI BIOS をサポートしません。したがって、Oracle Solaris 10 1/13 をインストールする前に、BIOS モードがレガシー BIOS に設定されていることを確認する必要があります。

---



---

### 注記

PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[32 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」](#)で手順を確認してください。

---

1. インストールメディアがブート可能であることを確認します。
  - **配布 DVD の場合。**ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブに Oracle Solaris 10 DVD を挿入します。
  - **ISO イメージの場合。**ISO イメージが使用可能であることと、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージが選択されていることを確認します。インストールメディアを設定する方法の詳細については、[10 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには:

  - **ローカルサーバーから、**サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。

- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- サーバー **SP** の **Oracle ILOM CLI** で「`reset /System`」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

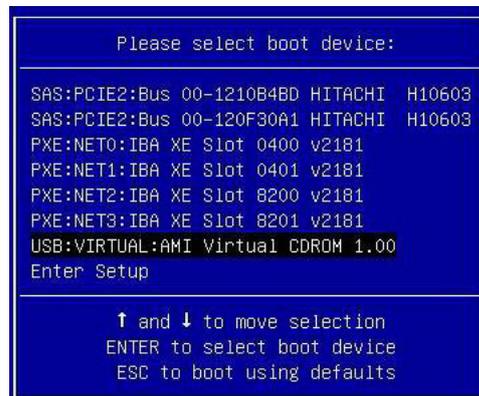


#### 注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面で F8 キーを押して、Oracle Solaris OS インストール用の一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。



4. 「Boot Device」メニューで、最初の (一時) ブートデバイスとして外付けまたは仮想 DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。  
[29 ページのステップ 3](#) に示す「Boot Device」メニューの例では、ブートデバイスとして仮想 DVD デバイスが指定されています。



#### 注記

Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、リダイレクトされた DVD から Oracle Solaris のインストールを実行する場合は、「AMI Virtual CDROM」を選択します。この項目は、リダイレクトされた DVD からインストールを実行するときに、「Boot Device」メニューのオプションとして表示されます。

---

「GRUB」メニューが表示されます。

5. 画面に表示されるプロンプトに従って Oracle Solaris のインストールを完了します。  
Oracle Solaris 10 1/13 のインストールを完了する手順については、Oracle Solaris のインストールドキュメントを参照してください。  
[http://docs.oracle.com/cd/E26505\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26505_01/index.html)

## 関連情報

- [32 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」](#)

## ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 11 のインストール

次の手順では、ローカルメディアまたはリモートメディアから Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムのインストールをブートする方法を説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Solaris 11.1 DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Oracle Solaris 11.1 ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)



---

### 注記

PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[32 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」](#)で手順を確認してください。

---

1. インストールメディアがブート可能であることを確認します。
  - **配布 DVD の場合。**ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブに Oracle Solaris 11 DVD を挿入します。
  - **ISO イメージの場合。**ISO イメージが使用可能であることと、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージが選択されていることを確認します。  
インストールメディアを設定する方法の詳細については、[10 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。  
たとえば、サーバーをリセットするには:
  - ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
  - **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
  - サーバー **SP** の **Oracle ILOM CLI** で「**reset /system**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。



## 注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面で F8 キーを押して、Oracle Solaris OS インストール用の一時ブートデバイスを指定します。  
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシー BIOS に構成したか UEFI BIOS に構成したかに応じて異なります。

- ・レガシー BIOS の場合、次の画面が表示されます。

```
Please select boot device:

SAS:PCIE4:Bus 00-434A35D1 SEAGATE ST9300
SAS:PCIE4:Bus 00-1210B5E5 HITACHI H10603
SATA:HDD:P4: DV-W2BSS-V
USB:USBIN:ORACLE SSM PMAP
PXE:NET0:IBA XE Slot 4000 v2193
PXE:NET1:IBA XE Slot 4001 v2193
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- ・UEFI の場合、次の画面が表示されます。

```
Please select boot device:

[UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB USB CD/DVD Drive
[UEFI]PXE:NET0:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET1:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:PCIE2:Intel(R) Ethernet Server Adapter X520-2
[UEFI]PXE:PCIE2:Intel(R) Ethernet Server Adapter X520-2
[UEFI]PXE:NET2:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET3:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]Built-in EFI Shell
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```



---

#### 注記

「Please Select Boot Device」メニューのオプションは、サーバーに搭載されているディスクコントローラの種類によって異なる可能性があります。

---

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Solaris OS メディアのインストール方法と BIOS モードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。  
例:
  - レガシー BIOS で Solaris OS ローカルコンソール配布方法を使用することを選択した場合、レガシー BIOS 画面から **SATA:HDD:P4 DV-W28SS-V** を選択します。
  - UEFI BIOS モードで Oracle ILOM リモートコンソール配布方法を使用することを選択した場合は、UEFI BIOS 画面から **[UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB CD/DVD Drive** を選択します。  
「GRUB」メニューが表示されます。
5. 画面に表示されるプロンプトに従って Oracle Solaris のインストールを完了します。  
Oracle Solaris 11.1 のインストールを完了する手順については、[http://docs.oracle.com/cd/E26502\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/index.html) の Oracle Solaris 11.1 インストールドキュメントを参照してください

#### 関連情報

- [32 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」](#)

## ▼ PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール

次の手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle Solaris 10 または 11 オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 PXE ブートインストールを開始するには、次の要件を満たしている必要があります。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次のタスクを完了しておくようにしてください。
  - Oracle Solaris 10 の場合は、PXE/boot JumpStart インストールサーバーが正しくセットアップされており、ネットワーク上のサーバーにアクセスできることを確認します。
  - Oracle Solaris 11 の場合は、Automated Installation (AI) イメージインストールサーバーがセットアップされており、ネットワーク経由でサーバーにアクセスできることを確認します。



---

#### 注記

複数の DHCP サーバーが存在するサブネットを経由した場合、PXE ネットワークブートは正常に機能しません。このため、インストール対象のクライアントシステムを含むサブネットでは、ただ 1 つの DHCP サーバーを設定する必要があります。

---

- Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 の PXE ブート用インストールメディアが入手できることを確認します。詳細は、次のいずれかのドキュメントを参照してください。
- **Oracle Solaris 10 1/13** の場合は、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド (ネットワークインストール)』 ([http://docs.oracle.com/cd/E26505\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26505_01/index.html)) の「ネットワーク経由のインストールの計画」を参照してください。
- **Oracle Solaris 11.1** の場合は、次の場所にある『カスタム Oracle Solaris 11 インストールイメージの作成』を参照してください: [http://docs.oracle.com/cd/E26502\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/index.html)
- Automated Installation インストールサーバーが、システムによる PXE ブートのブート元ネットワークインタフェースの MAC アドレスを持つことを確認します。たとえば、NET0 から PXE ブートする場合は、ルートとして Oracle ILOM SP にログインして、次のように入力することで MAC アドレスを取得できます。

```
-> show /SYS/MB/NET0 fru_macaddress
/SYS/MB/NET0
Properties:
    fru_macaddress = 00:21:28:e7:77:24
```

- システム上で構成された BIOS モードが、インストールする Oracle Solaris オペレーティングシステムと互換性があることを確認します。詳細については、[20 ページの「Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える」](#)を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。  
たとえば、サーバーをリセットするには:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- サーバー SP の **Oracle ILOM CLI** で「**reset /System**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。





#### 注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

2. PXE ブートが有効になっていることを確認するために、次の手順を実行します。

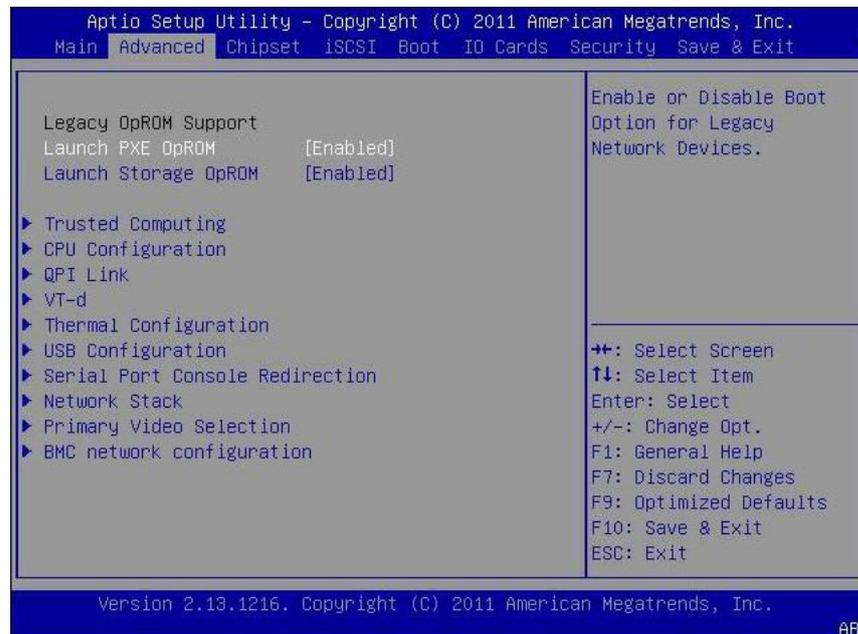


#### 注記

PXE ブートはデフォルトで有効になっていますが、この手順では無効になっている場合に備えて、PXE ブートが有効になっていることを確認します。PXE ブートが有効になっていることを確認したら、以降の PXE ブートではこの手順を省略できます。

- a. F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



- b. 上部のメニューバーで「Advanced」を選択します。
- c. 「Launch PXE OpROM」の設定を「Enabled」にします。
- d. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

これにより、サーバーがリセットされます。リセット後、再度、BIOS 画面が表示されます。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して一時ブートデバイスを指定するか、F12 キーを押してネットワークブート (PXE) を指定します。  
「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシー BIOS に構成したか UEFI BIOS に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS の場合、次の画面が表示されます。

```
Please select boot device:
SAS:PCIE4:Bus 00-1210B675 HITACHI H10603
USB:USBIN:ORACLE SSM PMAP
SAS:PCIE4:Bus 00-12111DED HITACHI H10603
SAS:PCIE4:Bus 00-BC1EB8A4 LSI Logica
SAS:PCIE4:Bus 00-87BF55D5 LSI Logica
SAS:PCIE4:Bus 00-1210B4D9 HITACHI H10603
SAS:PCIE4:Bus 00-120FACA1 HITACHI H10603
PXE:NET0:IBA XE Slot 2000 v2193
PXE:NET1:IBA XE Slot 2001 v2193
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- UEFI モードの場合、次の画面が表示されます。

```
Please select boot device:
[UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB CD/DVD Drive
[UEFI]PXE:NET0:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET1:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:PCIE2:Intel(R) Ethernet Server Adapter X520-2
[UEFI]PXE:PCIE2:Intel(R) Ethernet Server Adapter X520-2
[UEFI]PXE:NET2:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET3:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]Built-in EFI Shell
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```



#### 注記

「Please Select Boot Device」メニューのオプションは、サーバーに搭載されているディスクコントローラの種類によって異なる可能性があります。

4. 「Boot Device」メニューで、適切な PXE ブートポートを選択して、Enter キーを押します。PXE ブートポートは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された物理ネットワークポートです。  
「GRUB」メニューが表示されます。
5. 画面に表示されるプロンプトに従って PXE インストールを完了します。  
PXE インストールを完了する手順については、次のドキュメントを参照してください。
  - **Oracle Solaris 10 1/13** の場合は、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド (ネットワークインストール)』 ([http://docs.oracle.com/cd/E26505\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26505_01/index.html)) の「ネットワーク経由のインストールの計画」を参照してください。
  - **Oracle Solaris 11.1** の場合は、次の場所にある『カスタム Oracle Solaris 11 インストールイメージの作成』を参照してください: [http://docs.oracle.com/cd/E26502\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/index.html)
6. [36 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」](#)に進み、インストール後のタスクを実行します。

---

## 関連情報

- [28 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール」](#)

## Oracle Solaris インストール後のタスク

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールしてリブートしたあとで、更新が入手可能かどうかを判別する方法と更新のインストール方法に関する手順を Oracle Solaris のドキュメントで確認してください。次のドキュメント Web サイトを参照してください。

- Oracle Solaris 10 1/13 の場合は、次の URL を参照してください。[http://docs.oracle.com/cd/E26505\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26505_01/index.html)
- Oracle Solaris 11.1 の場合は、次の URL を参照してください。[http://docs.oracle.com/cd/E26502\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/index.html)

# 索引

## シンボル

- Oracle Solaris OS
  - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション, 29
  - PXE インストールの制限, 32
  - 一時ブートデバイス, 29, 31
  - インストール後のタスク, 36
- Oracle System Assistant
  - アプリケーションの OS インストールタスク
    - Oracle VM, 16
  - 概要, 14
  - 組み込みストレージデバイス, 15
  - タスク
    - Oracle VM, 15
    - 入手, 16
- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション
  - Oracle Solaris OS のインストール, 29
- Oracle Solaris OS のインストール
  - PXE ベースのネットワークからリモートメディアを使用, 32
  - メディアを使用した単一システムへの, 27
  - ローカルメディアまたはリモートメディアの使用, 28, 30
  - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用, 28, 30
- Oracle Solaris のドキュメントの Web サイト, 24

## あ

- 一時ブートデバイス
  - Oracle Solaris OS, 29, 31
- インストール
  - Oracle System Assistant の使用
    - Oracle VM, 24
  - タスクマップ, 7
- インストールオプション
  - 単一のサーバー, 13
- インストール後のタスク
  - Oracle Solaris OS, 36
- インストール先
  - オプション, 12
  - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 12
  - ローカルストレージドライブ, 12
- インストール方法
  - Oracle System Assistant の使用
    - Oracle VM, 14
  - 手動
    - Oracle VM, 14
    - ブートメディアオプション, 10
- オペレーティングシステム
  - インストールオプション, 13
  - サポートされるバージョン, 8

- オペレーティングシステムのインストール
  - 概要, 7
  - サポートされているオペレーティングシステム, 8
- オペレーティングシステムのインストールの概要, 7

## か

- コンソール
  - 表示オプションの選択, 9
- コンソール表示オプション, 9

## さ

- サーバーの電源投入, 28, 30
- サポートされているオペレーティングシステム, 8
- ソフトウェア
  - インストールオプション, 13
  - サポートされるバージョン, 8

## た

- タスクマップ, 7

## は

- ブートメディア
  - 要件, 10
- ブートメディアのインストール, 10
- プロダクトノート
  - Web サイト, 8

## ら

- リモートコンソール
  - 設定, 10
- リモートブートメディア
  - 設定, 11
  - 要件, 11
- ローカルコンソール
  - 設定, 9
- ローカルブートメディア
  - 設定, 11
  - 要件, 11

---